ちょっと寄り道

ゆかりの埋蔵文化財

わたしたちの足下には戦国時代に生きた人々の営みが眠っています。発掘調査で発見された水田や墓からは、収穫の喜びや来世への願いなど先人たちの思いが伝わってきます。

①仲田遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

御勅使川の古い流路上にある遺跡で、中世～近世の水田が発見された。洪水の度ごとに新たに水田が作られた様子がわかる。

水田に残された足跡

水田跡（中世）規則的な足跡が見られる。

②石橋北屋敷遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

墓（中世）北を枕にしている。かたわらには六道銭が供えられていた。

戦国時代の井戸や土坑墓が発見された。被葬者は北枕、手足を折り曲げた姿勢で葬られている。墓からは三途の川の渡し賃といわれる六道銭や魔除けの道具と考えられる鉄製品などの副葬品が出土した。井戸や溝からは、戦国時代の鍋である内耳土器や擂鉢、かわらけなどの食器が発見されており、当時の人々の生活をうかがうことができる。

戦国時代の土器

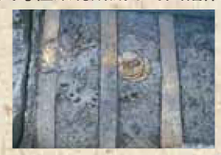
③野牛島・大塚遺跡第2地点（現市道八田163号線）

石橋北屋敷遺跡同様、戦国時代の土坑墓が発見された。方形の墓の中には六道銭とともに、用途不明の細い棒状の鉄製品が副葬されていた。この他、円形の土坑からは馬の歯が出土している。

口元に置かれた六道銭

④二本柳遺跡（甲西バイパス地点）

法善寺の塔頭「福寿院」の西側に位置する。中世の水田とともに溝によって区画された戦国時代の寺院跡が発見され、「福寿院」が東側へ広がることがわかった。寺域内からは火葬骨を埋葬した木棺が出土。寺院と関係した人物が葬られたのか木棺には梵字や真言の偈文が墨で書かれ、その内容は当時の葬送の手順を書いた元興寺極楽坊所蔵の『入棺作法』の内容と一致している。また、寺域内の井戸からは、兜の飾り金具が出土。この飾り金具は、長野県下伊那郡阿智村長岳寺に伝わる武田信玄の前立てと極めて類似している。



木棺の蓋を開けたところ

木棺

兜の飾り金具

⑤二本柳遺跡（現農道）

「法善寺境内図」によれば、近世の法善寺の周囲には20を超える塔頭があり、壮大な規模を誇っていた。発掘調査の範囲は、その中でも一際大きい塔頭である「福寿院」の一部。調査では、戦国時代の土器や卒塔婆などの木製品、五輪塔、石臼などが発見された。土器の中には僧侶の名前と思われる文字が墨書されたものもある。

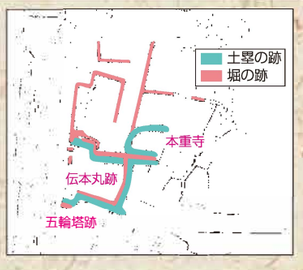
法善寺境内図

調査風景

戦国時代の土器

⑥椿城跡（農地）

地中レーダー調査をした結果、堀や土塁、いくつもの地下式坑の存在が確認された。現在も地中に中世の城の姿が残されていることがわかった。



椿城想定図

⑦村北第二遺跡

1号土坑墓出土土器

平安時代の竪穴住居跡と戦国時代の墓が2基発見された。それぞれの墓には銅銭が6枚ずつ入れられ、一方の墓には、香炉や皿などの土器が一緒に埋められていた。

出土した歯と六道銭
（上段2号土坑墓、下段1号土坑墓）

1号土坑墓

コラム Column

土屋惣蔵と忠臣蔵

土屋惣蔵昌恒は金丸筑前守虎義の五男として生まれました。金丸氏は現在南アルプス市徳永にある長盛院の地に館を築き、その周辺を治めていた武田家の重臣です。惣蔵は成長ののち駿河の武将土屋備前守の養子となり、土屋姓を名のることになりました。

余談ですが、後世武田二十四将に数えられる惣蔵の兄も土屋右衛門尉昌続と、「土屋」を姓としました。こちらは信玄が昌続の働きぶりを讃えて与えた姓で、そもそもは武田家に代々仕えながら断絶してしまっていた名門土屋氏のものです。

惣蔵は、信玄の病没後、その家督を継いだ武田勝頼の側近となります。

一時は甲斐、駿河、信濃などを治め、数万の軍勢を誇った武田軍ですが、勝頼が田野の地に追われた時、勝頼に従った人数は惣蔵をはじめわずか数十人だったとも言われます。

天正10年3月11日、武田家滅亡の日、惣蔵は勝頼親子が自害する時間を稼ぐため、崖の狭い道筋に立ち、片手に鞍、片手に刀を持って押し寄せる敵の大軍を防いだと伝えられています。これが「土屋惣蔵片手千人斬り」の伝説です。

武田家の形勢が次第に不利になっていく中、次々に勝頼から離反していく家臣団の中で、金丸氏の一族は惣蔵を含め、四男、七男も天目山で討ち死にしました。最期まで勝頼を守り抜いた惣蔵の姿は、武田家最後の忠臣として今も語り継がれています。

ちなみに、惣蔵の遺児は徳川家康に見いだされ、後に上総国久留里藩2万石の藩主となりました。さらにその子孫二人は忠臣蔵と深く関係します。一人は老中となった土屋政直で、浅野内匠頭を裁く立場となりました。もう一人は敵役吉良邸の隣に住んだ土屋主税で、討ち入りを見逃すだけでなく、高提灯を掲げ赤穂浪士を助けたと伝えられています。

明治28年長盛院境内図

平成21年度埋蔵文化財保存活用整備補助事業
南アルプス市教育委員会　文化財課
☎055-282-7269

遺跡で散歩 vol.4 MINAMI-ALPS CITY

vol.4 戦国時代の史跡を歩く

名取将監の墓

武田信虎に仕えた有力な武将だったが、忠言が疎まれて遠ざけられ、芦安地区に住んだと地元で語り伝えられる。住居があったとされる場所は現在でも「殿屋敷」と呼ばれ、大曽利地区大宝寺に墓がある。

Ⓐ信玄伝承の御勅使川治水史跡

『甲斐国志』によれば、信玄は御勅使川・釜無川の治水のため、石積出や将棋頭、堀切、十六石、信玄堤を築いたと伝えられる。信玄築堤伝承の根拠については不明な点が多いが、石積出や将棋頭は、扇状地に広がる多くの村々を守る重要な堤防であった。

●コースあんない　土屋惣蔵の墓～阿弥陀寺まで　距離13.8km／時間 258分

①土屋惣蔵の墓	0.3km	➡	徒歩5分	②金丸氏館跡	1.4km	➡	徒歩25分	③西野姫のお経塚	0.7km	➡	徒歩14分	④西原五輪塔群	5.8km	➡	徒歩110分 車9分	⑤法善寺	1.2km	➡	徒歩22分 車7分	⑥妙太寺	1.6km	➡	徒歩30分
⑦古長禅寺	1.5km	➡	徒歩27分	⑧深向院	0.5km	➡	徒歩10分	⑨跡部大炊介屋敷跡	0.7km	➡	徒歩13分	⑩河村下野守屋敷跡	0.1km	➡	徒歩2分	⑪武藤三河守屋敷跡							

⑥妙太寺

牛頭天王の廃祠を天正年間、武田家家臣の原大隈守が本堂を建立し再興したと伝えられる。

⑦古長禅寺

臨済宗寺院。信玄の母、大井夫人の菩提寺。
大井夫人の墓がある。もともと長禅寺と称するが、後に甲府に長禅寺が造られたため古長禅寺と称するようになった。母とともに信玄も、時の住職、岐秀元伯に深く帰依し、「信玄」の法号も岐秀が授けたものと言われる。 県指定史跡

十日市

戦国時代以前から続く伝統の市。現在も2月の10・11日の両日に開かれ、甲府盆地に春を呼ぶ祭りとして親しまれている。古くは、法憧院の天文3年（1534）の厨子銘に十日市場の村名がみえる。 市指定史跡

⑧深向院

天長年間、弘法大師創建と伝えられる寺院。武田五郎信光が再興し、天文年間に武田家の重臣であった跡部大炊介が真言宗寺院を改宗して現在の曹洞宗寺院を建立した。本尊は釈迦如来 県指定文化財

椿城

小笠原長清の孫、上野盛長が鎌倉時代に築いた城で、上野城と呼んだが付近に山茶が多く、椿城とも呼ばれた。後代武田信虎と争った大井信達の居城となる。大井信達の娘、大井夫人は信虎の正室となり、後に信玄を産むことになる。 市指定史跡

⑨跡部大炊介屋敷跡（了泉寺）

跡部大炊介の屋敷跡を寺としたと伝えられる。

⑩河村下野守屋敷跡（常泉寺）

東落合の常泉寺は、武田勝頼に従い天目山で自害した河村下野守道雅の屋敷跡と伝わっている。寺は、道雅の妻が、亡き夫の菩提を弔うために建立したと言われ、河村家ゆかりの阿弥陀如来なども伝えられている。

①土屋惣蔵の墓

土屋惣蔵は武田家滅亡の最後まで勝頼に仕えた武将。織田軍を防ぎ、勝頼に自害の時を与えた「片手千人斬り」の伝説を残す。惣蔵の墓の他、次兄昌続ら金丸氏一族の墓がある。 市指定史跡

②金丸氏館跡（長盛院）

金丸氏は代々武田家に仕える家柄で、現在の長盛院の地に館を築いた。東側は崖の要害で、西側には土塁と堀がめぐらされている。四代金丸虎義の次男が武田二十四将にも数えられる土屋右衛門尉昌続、五男が土屋惣蔵。

③西野姫のお経塚（現畑地）と ④西原五輪塔群

西野の武将、明慶院には西野姫と呼ばれる美しい娘がおり、武田信虎に嫁ぐことになっていた。しかし、敵対する大井氏に一族が攻め滅ぼされたため、西野姫は尼僧となり、お経塚で一族の菩提をとむらったと伝えられる。西野西原の円通寺北西には、妙慶院と西野姫の供養塔と伝えられる五輪塔と宝篋印塔がある。

⑤法善寺

真言宗の寺院。武田氏の氏神武田八幡神社の別当を務め、武田氏の戦勝祈願寺でもあった。信玄が自筆し法善寺へ奉納した和歌百首は文化8年（1811）の火災で焼失したが、消失前に筆写された木版本が残る。

戦勝祈願文と信玄木像（法善寺蔵）